

令和4年度 学校評価 青垣中学校パワーアッププラン

1 目標・方針

<p>中期的な学校運営の目標・方針</p>	<p>【学校教育目標】『ふるさと青垣を愛し 自ら学び たくましく生きる 児童生徒の育成』 ～自ら学び 自ら鍛える 地域に誇れる 青中生～</p> <p>①生徒の自立に向けた確かな学力の育成 ②安心・安全な学校づくりの推進 ③地域とともにある学校づくりの推進 ④教職員が健康で生徒に向き合う環境づくりの推進</p>
<p>本年度の重点目標</p>	<p>【確かな学力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別最適な学びと協働的な学びの推進</li> <li>・一人ひとりが安心して学べる環境づくり</li> <li>・読解力向上に向けた研究推進</li> <li>・豊かな心を育む読書活動の充実</li> </ul> <p>【安心・安全な学校づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な価値感を認め、自他ともに大切にしている生徒の育成</li> <li>・生徒の力による学級や生徒会づくり</li> </ul> <p>【地域とともにある学校づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中高連携（小中一貫校・連携型中高一貫教育）</li> <li>・家庭との連携（相談体制や情報発信の充実）</li> <li>・体験活動や地域連携（トライやる・ウィーク、アントレプレナーシップ教育、ボランティア活動、コミュニティ・スクール等）</li> </ul>

2 自己評価（達成状況）

A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
<p>学校運営</p>	<p>学校経営</p>	<p>家庭・地域連携 小・中・高連携</p>	<p>A</p>	<p>①オープンスクールの実施などにより、保護者が来校される機会を増やすとともに、気軽に相談できる体制やHP、メール、たよりなどによる情報発信の充実を図る。 【保護者アンケートより】 ○「学校行事は適切であった」 R3:78%→R4:93% ○「気軽に相談できる」 R3:71%→R4:84% ○「通信やHPで学校の様子をよく知ることができる」 R3:72%→R4:84% ○「生徒をよく理解し、適切な指導を行っている」 R3:75%→R4:82% ※来校される機会が増える中、家庭連携をより進めることができた。</p> <p>②地域人材の活用や積極的にボランティア活動に参加することなどにより、地域とのつながりを深化させ、ふるさと青垣の魅力を感じるとともに、自尊感情や自己有用感を高める。 ・地域に学ぶトライやる・ウィーク ・コミュニティ・スクールによる技術科及び家庭科への学習支援 ・『NPO 法人佐治倶楽部』によるアントレプレナーシップ講座、芦田集学校との連携 ・その他（俳句教室、手話教室、料理教室、地域行事などでのボランティア活動など） 【生徒アンケートより】 ○「自分にはよいところがある」 R3:79%→R4:82% ※地域の中や地域の方といきいきと活動する生徒の姿を多く見る事ができた。今後も地域の方のご協力を得て、生徒の自主的・主体的な活動を導いていく。</p> <p>③小中及び中高の連携活動など異年齢とのつながりを深めることなどにより、好ましい人間関係を築き、進学時の環境の違いによるギャップをなくす。 ・小中高合同クリーンアップ作戦 ・6年生の中学校授業見学や対面での入学説明会（体験授業は大雪により未実施、今後実施予定） ・中高吹奏楽部合同演奏（地域行事・文化祭での演奏） ・中高オープンスクールへの参加（全教員が参加） ※小中及び中高の教科連携が進まなかった。今後、担当者により連携にかかわる年間計画を明確にし、学習面での連携を進めていく。</p>
	<p>生徒指導</p>	<p>生徒の力による学校づくり</p>	<p>B</p>	<p>①生徒の主体的・自治的な学級や生徒会づくりを進め、すべての生徒が活躍できる場面を実現することにより、自尊感情や自己有用感を向上させ、将来に夢や希望をもてる生徒の育成を目指す。 【生徒アンケートより】 ○「学校に行くのは楽しい」 R3:78%→R4:82% ○「学校行事はクラスの団結や自分の力を発揮できる場になっている」 R3:93%→R4:95% ○「部活動は楽しく意欲をもって参加している」 R3:90%→R4:95% ○「先生には、よいことや努力したとき正しく評価してもらえる」 R3:95%→R4:97% ○「気持ちのよいあいさつが自分からできている」 R3:96%→R4:96% △「将来の夢や希望を持っている」 R3:74%→R4:72% △「生徒会活動に積極的に取り組んでいる」 R3:92%→R4:89% △「自分はクラスの役に立っている」 R3:67%→R4:67% (R2:72%) ※アンケートの結果が低下している項目があるが、概ね高い値を示している。さらに学校が楽しいと思える生徒及び将来の夢や希望が持てる生徒の育成を目指し、生徒の力による学校づくりを進める。</p>
		<p>授業の工夫・改善</p>	<p>A</p>	<p>①ICTの積極的な活用や少人数指導を展開することなどにより、一人ひとりに寄り添う時間を確保するとともに、話し方・聞き方の工夫による発言しやすく安心して学べる学習環境をつくる。 ②学力向上委員会の定期的な開催や授業公開ウィークの実施などにより、生徒が主体的・協働的に学べるよう、授業の工夫改善に努める。 【生徒アンケートより】 ○「先生はわかりやすいように授業を工夫している」 R3:89%→R4:93% 【保護者アンケートより】 ○「生徒の学力向上に向けた授業の工夫や個に応じた指導を行っている」 R3:71%→R4:88% ※読解力向上プロジェクト事業の指定（R2～R4）を受けていることもあり、正しく読むことや聞くことを大切に授業</p>

教育課程	学習指導		<p>業づくりを進め、授業だけでなく生活の場でも、生徒のアウトプット能力やコミュニケーション能力を高める取組を行うことができた。さらに教員もわかりやすく伝えるためにはどうしたらいいのかを考え、生徒のつまづきにも気づく取組を行うことができた。</p> <p>※学期に1回授業公開ウィークを設定し、少人数の教員グループでお互い授業を評価する機会を設けることができた。</p>	
	学びに向かう力の育成	B	<p>①ICTの有効活用や対話を重視した学び合い、見通しを持たせた授業展開等により、意欲的に学ぶ生徒の育成を図る取組を行う。</p> <p>②礎チャレンジ、頑張りタイムの継続的な実施、また読書活動の充実やリーディングスキルテストにより基礎学力及び読解力の向上を図るとともに、目標を持って学習に取り組む姿勢を養う。</p> <p>③家庭との連携、個別の学習支援等により、自学できる生徒の育成を図り、平日の家庭学習が1時間以内の生徒の減少を目指す。</p> <p>【生徒アンケートより】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「意欲的に授業に取り組んでいる」 R3:92%→R4:93%</li> <li>○「朝読書や朝学習に積極的に取り組んでいる」 R3:91%→R4:96%</li> <li>○「学習や生活について気軽に相談できる」 R3:84%→R4:85%</li> <li>○「家で自分で計画を立てて勉強している」 R3:70%→R4:70% (いいえ R3:12%→R4:5%)</li> <li>○「目標をもって家庭学習や自主ノートに取り組んでいる」 R3:66%→R4:71%</li> </ul> <p>△「家庭学習の時間(塾含む)」3時間以上 R3:7%→R4:8%</p> <p style="padding-left: 20px;">1時間～3時間 R3:67%→R4:65%</p> <p style="padding-left: 20px;">1時間以下 R3:26%→R4:27%</p> <p>【保護者アンケートより】</p> <p>△「お子さんは意欲的に家庭学習に取り組んでいる」 R3:52%→R4:49%</p> <p>※学校の授業では、多くの生徒が意欲的に取り組んでいるが、家庭学習には課題が見られ、1時間以内の生徒を減少させることができなかった。目標をもって家庭学習に取り組んでいる生徒の割合は増加していることから生徒の二極化が見られ、個別支援や家庭との連携の見直し、さらにタブレットを活用した学習支援が必要である。</p>	
課題教育	人権教育	多様性と調和	A	<p>①あらゆる活動を通して多様な価値観(違い)を認め、自他ともに大切にする人権教育を推進することで、学校での信頼づくりや居場所づくりをすすめ、いじめや不登校の未然防止を目指す。</p> <p>【生徒アンケートより】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「いじめなどでいやな思いをしたことがない」 R3:80%→R4:86%</li> <li>○「クラスは楽しく居心地がよい」 R3:90%→R4:91%</li> </ul> <p>※不登校生徒は昨年度と同程度であるが、時差登校や別室登校など、個に応じた対応を行っている。そのため、多様な登校やオンライン授業の機会が確保できている。また人権弁論大会や平和講演会、さらに転入生への対応などさまざまな機会を通して人権教育を進めることができた。引き続き相談しやすい居心地のよい環境づくりを進めていく必要がある。</p>
	情報教育	情報モラル	C	<p>①PTAと連携した情報モラル講演会の実施や生徒会によるスマホルール作りなどにより、スマホ(ゲーム)に依存する生徒や個人情報の管理が未熟な生徒を減らし、SNSによるいじめの未然防止に努める。</p> <p>【生徒アンケートより】</p> <p>△「スマホやPCを1日あたりどれくらい使うのか」1時間以下・しない R3:27%→R4:32%</p> <p style="padding-left: 20px;">1時間～3時間 R3:53%→R4:48%</p> <p style="padding-left: 20px;">3時間以上 R3:19%→R4:20%</p> <p>※普段から絶えずSNSの利用について注意喚起を行っているが、5人に1人が1日3時間以上SNS等を利用している現状を改善できなかった。未だにSNSを介したトラブルも起きている。PTA主催の情報モラル講演会を実施したが、保護者の参加は少なかった。家庭への啓発を継続しながら、地道に生徒に向き合っていかなければならない。</p>

### 3 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、地域との交流を積極的に進められていることについて概ね評価できる。学校外のたくさんの方との交流はプラスになる。</li> <li>・自分自身が主体的に責任ある役目を持つことは、避ける傾向にあるように感じる。一人になっても自信をもって行動できる強さを養ってほしい。</li> <li>・生徒の力による学校づくりは面白い。すべての生徒が活躍できる場が実現できれば、学校生活は充実した楽しいものになる。誰かの役にたつことにより自己有用感が向上すると思うので、その機会を増やしてほしい。</li> <li>・「自分にはよいところがある」がアップしているのは、日ごろから先生や友達、保護者の方からよいところを認められたり、褒められたりする機会が多いからだと思う。</li> <li>・家庭学習は、個人差が大きいように感じる。学ぶ楽しさを感じることができれば、家庭学習も充実するのではないかと思う。悩んでいる生徒には個別支援をお願いしたい。</li> <li>・スマホ等の使用時間と家庭学習の時間はリンクしている。家庭学習の二極化については、中間層をもう少し細かく分析するともっと実情が見えると思う。</li> <li>・情報モラルが唯一Cなのが気になる。スマホの使用時間を減らすことも大切であるが、どういう内容で使用しているのかも重要である。警察とも連携して健全育成に一層努力していただきたい。平日の講演会は保護者が参加しにくいので、オンライン配信や後日の動画視聴などの工夫をお願いしたい。</li> <li>・コミュニティースクールを充実させるためには、担当の先生との事前協議も必要だと思う。</li> <li>・大雪で3日間休校になったとき、タブレットをうまく活用してオンライン授業をさせてもよかったのではないかと思う。</li> <li>・中学生の地域での活動や学校で取り組んでいることが分かりにくいので、広報誌を定期的に出してほしい。</li> </ul>
---

### 4 次年度の改善の方向性

<ul style="list-style-type: none"> <li>・青垣地域の最大の特徴である小中高連携及び地域連携をより発展させ、生徒の主体的・自主的な行動を導き、自己有用感や自尊感情の向上を図る。</li> <li>・小中及び中高とも今年度進まなかった学習面での連携を計画的に進める。</li> <li>・生徒の力による学校づくりを進めるためには、教職員の意識改革が必要である。生徒が主体的に取り組む姿をサポートできるよう、これまで以上に「認める任せる」意識を教職員で共有し、「学校が楽しい」、「将来の夢や希望を持っている」生徒の育成を進め、未来に生きる力の向上を目指す。</li> <li>・意欲的に授業に臨む生徒が多くなってきた中、家庭学習の充実など自ら学びに向かう力の育成を図るため、タブレットを有効利用した家庭学習や学習の個別支援、さらにPTAと連携した情報モラル教育等と一体的に充実させる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">令和5年2月28日</p> <p style="text-align: right;">学校名 丹波市立青垣中学校 校長名 大槻 隆 浩</p>
---

